

鳥海グリーンライン

排水処理万全 1日開通

2013年11月に5人が犠牲となった土砂崩落により、一部通行止めとなっていた由利本荘市矢島町の市道猿倉花立線(鳥海グリーンライン)が、10月1日に開通する。事故から6年。同じ悲劇を繰り返さないよう復旧工法を吟味し、排水処理にも万全を期した。市が「重要な観光道路」と位置付ける路線の開通を受け、客足が鈍っていた周辺の観光施設も期待を寄せている。

■鳥海グリーンライン関連記事3面

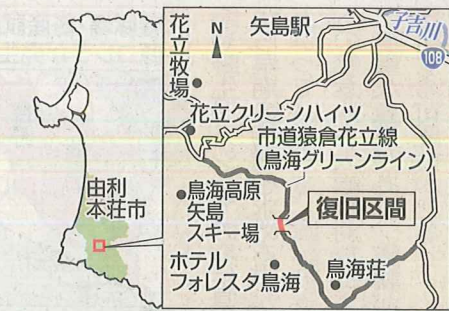
土砂崩落事故から6年

事故は13年11月21日、市道の復旧工事現場で発生。工事を請け負った山科建設(同市)の作業員5人が土砂に巻き込まれ犠牲となった。

亡くなった菅野幸一さん(当時57)の妻(61)は毎年、11月21日に現場へ足を運び、夫の冥福を祈る。近づく復旧を受け、「不便な状態が解消されることは喜ばしいが、事故が忘れられるのは嫌。道路を通る時には、あれだけ悲惨な事故があった場所なんだということを思い出してほしい」と語った。

現場は事故後2年間にわたった。市は16年度から復旧に向けて動きだした。専門家も交えて協議を重ね、盛り土による復旧に着手。崩れた土砂とのり面に残った盛り土の撤去作業を17年9月に始め、約2万3600立方分の土砂を運び出し、固化剤を混ぜて崩れにくくした上で盛り土を

事故は雪解け水と大雨により、盛り土内の地下水位が急速に上昇したことによって起



来月1日に6年ぶりに開通する鳥海グリーンライン=今月10日

きたと推察されており、復旧工事では専門家の指摘を踏まえ、排水処理も徹底。盛り土内に水を入り込ませず、入り込んでも外に排出されるよう

に工夫した。

市建設部によると、総事業費は約5億2900万円。うち約2億7千万円は国からの交付金を充てた。

10月1日は午前10時から現場で「竣工安全祈願」を行う。市や業者の関係者約50人が参加予定。一般車両の通行は正午ごろから。同部は「道路管理者としては6年もの間、開通できず申し訳なかったが、ようやく復旧する。開通を多くの人に周知したい」としている。

(喜田良直、佐藤優将)